

4. 里山と森林・林業

代表: 稗田 忠弘

市民の暮らしと森林の未来 ~森をつくる地域循環型の暮らし~

共催: 東金市

●自然体験:

日時 2005年4月30日(土) 9:30~ 参加者 49名
 受付開始 東金文化会館エントランスホール
 10:00~12:00 森林ウォッチング
 鴉ヶ嶺の森~あしたの森



●シンポジウム:

日時 2005年4月30日(土)
 会場 東金文化会館2階会議室 参加者 53名
 昼食、交流

パネラー:

吉岡 寛: 山武郡市森林組合 組合長
 東金市建設部都市整備課 東金市経済環境部農政課
 東金市経済環境部環境保全課
 本間 一夫: さんむフォレスト
 コーディネーター: 稗田 忠弘: さんむフォレスト

その他パネル展示

東金市建設部都市整備課 東金市経済環境部環境保全課
 東金市経済環境部農政課 ちば環境情報センター
 さんむフォレスト

プレゼント 東金市建設部都市整備課から 花の種をプレゼント



4 まとめ: 地域循環型の暮らしが森をつくり、地域をつくる!

●現状

- ・戦後の無理な拡大造林の後、森林の手入れが出来ていない。
- ・東金市は市民による森づくりなど、市民の自然体験を支援している。
- ・山武杉を活用した住まいづくりなど、地域循環による森林再生運動の実施。

●結論

- ・森林の木材生産以外の多面的機能を守るために人の手が入る必要がある。
- ・地域循環型の暮らし方が、地域の森や自然を守る力になることを再確認する。

●課題

- ・木質バイオマスエネルギーの利用など、森林が暮らしと結びつく仕組みづくりが必要である。
- ・林業が産業として成立する形で市民参加と行政の協力を考える必要がある。



森林林業分科会は山武杉の産地、東金市を???にして、東金市役所との共催で分科会を開きました。午前は東金市民がつくる?森林公園をウォッチングし、午後はパネルディスカッションを行いました。森林が美しかった過去について知り、現在の状況を理解して、森林の未来を考えようというのがパネルディスカッションの題です。生活資源の多くを森林に依存していた時代は、地域の暮らしと森林が美しく調和していたという過去の話がパネルディスカッションの???でした。現在、地球の温暖化が大きな問題となっている中で木材が理想のエネルギー源と言われながら、木材業界のなかでは端材?や???の処分に困っていること、利用しようとすれば現在の会社?の中で利用できるテクノロジーが身近にあること????とし、市民が木材の産地、エネルギー源としての特質?された産地に暮らしている恩恵に改めて気づくことが森林再生に関心をもつ第一歩になるのだと考えました。東金市の田んぼの学校の取り組みからは、林業?????田んぼの学校は農民が遊休農地を利用して有償で一般市民に農業指導する農業の一形態ですが、農民の発祥の背景には、農業という職業の効率性の自覚と農業者としての誇りがあります。森林所有者に森林の公益性と林業の重要性をしっかりと自覚されてこそ、市民参加の森作りのあり方が明確になってくるものと思います。昨年の第一回シンポジウムでは、市民、森林所有者、行政のそれぞれの役割に応じた総合協力システムの構築が必要であると提言しましたが、今回はそれを受けた一つの成果として、継続的な議論の場をつくることができたものと思います。

委員名と役割分担

代表: 稗田 忠弘

副代表: 福満 美代子

記録係: 小野 鈴子

委員: 石田 光男、高宮 文夫、今関 貞夫、日暮 岐夫、戸村 寿彦、鈴木 雅明、鶴岡 義弘、山倉 周幸、桐山 正治、大和田 恭、西塚 健治、鈴木 剛治、野口 英一、本間 一夫、唐笠 敦

タイムテーブル

9:30~ 受付開始 東金文化会館エントランスホール
 10:00~12:00 森林ウォッチング 鴉ヶ嶺の森~あしたの森
 12:00~13:00 昼食、交流
 13:00~16:00 シンポジウム

出席者数

森林ウォッチング 49名 シンポジウム 53名

基調講演等の内容

パネラー 冒頭発言

<吉岡 寛>(山武郡市森林組合)

- ・山武地域には荒れ、且つ病気の森林が多い
- ・60年前の戦争末期に起因。本土決戦を覚悟、敵の九十九里上陸を想定して台地に何kmにも渡る横穴を掘った。粘土質による崩れを土留めする為に徴用で杉、松を切り出す。
- ・戦後、木材用の木が不足、昭和30年代の施策として1反600本を植樹。
- ・実生ではなく差し穂という植樹方法の為、みぞぐされ病などの遺伝形質が現在多くの木に発生している。(クローン杉)
- ・人工林は定期的に手を入れる必要有り。
- ・昔は1年分の燃料確保の為に林業家以外の人々も先を争って山に入り、枝打ちをした。・エネルギーの転換、少子化・高齢化

による林業の担い手が不足。

- ・国からの補助金が直接的に里山、林業に届くしくみができないと林業家の存続はむづかしい。
<鈴木 雅明> (東金市建設部都市整備課)
- ・昭和63年セントラルパーク構想生まれ、何でもできる公園を市民・行政で管理・運営することに
- ・平成11年一般公募により「ときがねの森公園市民の会」を作った。個人に桜の苗木を買ってもらい名前をつけ公園内に植樹。
- ・森のリサイクル活動を多くの市民の手で行えることを目的としている。
<今関 貞夫> (東金市経済環境部農政課)
- ・有休農地は現在7%(於東金市)、丘陵部に多い。
- ・農産物の価格の低迷、労働時間・休日、経済性等による農業ばなれ。
- ・そんな中で「東金・田んぼの学校」がスタート。
- ・有休農地、特に谷津田を有効に活用する。営農の一つの形。
- ・農家を「先生」、参加者を「生徒」と明確に位置づけ。
- ・消費者に安心・安全というニーズがあり有料で農業体験と収益を手にしてもらう。
- ・体験者に真の安心・安全とは何かを知ってもらう場にする。
- ・子どもは泥遊びから周辺の森林等の自然へと行動を広げている。
<鶴岡 義弘> (東金市経済環境部環境保全課)
- ・あしたの森は市民の発案で荒れた土地を整備、行政は支援する立場。
- ・あしたの森づくり応援団が活動。行政機能の活用。
- ・行政の中で環境が仕事になったのは最近。人の暮らしと自然のバランスが崩れている。
<本間 一夫> (さんむフォレスト)
- ・サンムフォレストの紹介。地域循環型の住まいづくり。病害を受けた森林の木材で住まいを造る方法の提案。実例紹介。
- ・ペレットストーブ等の紹介。木質バイオマスエネルギーとしての利用。木材を使い切る。エネルギー源としての森林。
- ・自然と経済と環境の循環。
- ・農地の問題と森林の問題は酷似している。

分科会の結論

- ・そんな中で「東金・田んぼの学校」がスタート。有休農地、特に谷津田を有効に活用する。営農の一つの形。
- ・農家を「先生」、参加者を「生徒」と明確に位置づけ。・消費者に安心・安全というニーズがあり有料で農業体験と収益を手にしてもらう。
- ・体験者に真の安心・安全とは何かを知ってもらう場にする。
- ・子どもは泥遊びから周辺の森林等の自然へと行動を広げている。

分科会の課題

- ・掛けた手間が農業のようにすぐに収益にならないため、手間をかけずに放っておいた方が楽。
- ・子どもを対象としたとき、常に怪我の問題がついてまわる。
- ・林業の活性化だけを図っても意味無い。その先の活用するところまでを考える必要がある。
- ・林業家の意識改革も必要である。
- ・国民の理解を得なければ森林・林業は成り立たない。
- ・山は使わないときれいにならない。暮らしと結びつけること。
- ・新築家屋の8割をメーカーが作っている。材料の8割は輸入材。メーカー受注の家は地元にも落ちない。足下のもので自分たちの生活を考えないと・・・。
- ・地域の特性を活かした家造りは国県単位より市町村レベルのほうが良い。
- ・地域循環型の産業や暮らしが、地域の森や自然を活かし、守ることにつながることを再認識する。

分科会の提言

- ・地域循環型の産業や暮らしが、地域の森や自然を活かし、守ることにつながることを再認識する。

その他特筆すべき内容

- ・木質バイオマスエネルギーの利用など、森林が暮らしと結びつく仕組みづくりが必要である。

反省等

- ・林業と暮らしの見事な循環を実現していた過去と、現在の状況にいたる原因を学び、明日の森林をつくる暮らし方を考える機会とする。林業が産業として成立する形での市民参加と行政の協力を考える必要がある。

その他

行政と分科会を共催し、継続性のある協議の場が出来た。